

## 都立大生に聞く！

### ボランティアからつながる一歩

-ボランティア経験者が語るここだけの話-

ゲスト

西山千晴さん 健康福祉学部3年  
(東日本きずなプロジェクト代表)

ファシリテーター

宮崎仁美さん システムデザイン学部4年  
(学生コーディネーター)

2021年7月2日 (金)

## 報告

### ■ 都立大生に聞く！シリーズ、今年度第1弾！

7月2日(金)、本学の学生を対象にしたオンライン講座「都立大生に聞く！ボランティアからつながる一歩～ボランティア経験者が語るここだけの話～」を開催しました。ゲストは「東日本きずなプロジェクト」代表の西山千春(にしやまちはる)さんにお越しいただき、西山さんのご経験や考えを様々な角度からお話いただきました。

### ■ きずなに入団したきっかけと活動の目的

西山さんが作成したスライドを画面共有しながらお話をいただきました。東日本大震災が起こった当時、西山さんは小学校4年生だったそうですが、ものすごい恐怖を感じたことを今でも鮮明に覚えているそうです。その経験からずっと震災に関わることをしたいと思っていたそうです。元々ボランティアに興味があり「きずな」に入団したそうです。

「きずな」の活動目的は・自らが現地で“被災地”の「いま」や東北の「魅力」を知り、学ぶこと。・それらを周囲の人に発信し、東北に対して「興味・関心」を持ってもらうことの二つです。主な活動は週に1回のオンラインミーティングと多摩地域でのイベント開催、福島、宮城、岩手県へのスタディツアーです。岩手県大槌町には毎回訪れているそうです。現地に行くことを大事にしていたのですが、コロナ禍では現地に行くこともできず、ほぼオンラインで活動しているそうです。2021年度は新入生の加入もあり、現在12名となり様々な企画にチャレンジしていきたいと抱負を語ってくれました。

### ■ 活動を継続して感じること


学生コーディネーターの宮崎さんから「続ける秘訣は？」との質問に「助けや支援を求められているから行くということではなく、東北に行きたい、大槌町に行きたいという気持ちが団体が続いている原動力になっている。」と教えてくれました。「難しいと感じているところは？」との問いには、「10年活動してきて人々の記憶の風化を感じている。団体としてどう繋ぎ止めていくかが課題だ」と西山さんは教えてくれました。

## ボランティアって何？

ボランティア活動の魅力って？

どんなことをするの？


自分の学問にどう活かされるの？



**東日本きずなプロジェクトに聞く！**

## ボランティアからつながる一歩

-ボランティア経験者が語るここだけの話-



**開催日**：07.02(Fri) 昼休み(12:10-12:50)

**会場**：オンライン (Zoomミーティング)

### ■ 伝えることの難しさと工夫

「活動のメインに、東北の魅力を伝えるということがあると思いますが、伝えることについてはどのように工夫されていますか？」との宮崎さんからの質問について、西山さんは「伝えることについては課題だと思っている。SNSなどのツールはあるのですが活かしきれていない。それをもっと上手く活用していきたい。」と課題についても話してくれました。

現地ツアーで学ぶことはとても多く、繰り返していく中で自然と東北が好きになるそうです。言葉だけでは伝えることは難しいが、写真や動画で楽しそうなところを見てもらえればいいな。と西山さんは語ってくれました。その様子を見て、宮崎さんは「笑顔で活動の様子を語る姿を見て素敵な団体なんだな～と感じています。活動を重視しているからこそ、伝えたいことが伝わってくるんだとわかった。」と話してくれました。西山さんは「大学内でももっとの認知度をアップしていきたい。」と語ってくれました。

### ■ オンラインチャットでの質問タイム

参加者の方からリアルタイムで届いた質問にも応えてくれました。東北地域での活動にこだわる理由は？との質問に「スタディツアーに行くと現地の方とお会いしたり、旅行した街並みを見ると全く他人事には思えなくて、行くことで(震災を)忘れてはいけないという思いを強くする。こだわると言うよりはこだわらざるを得なくなるというか、ちょっとした使命感もある。現地で見るとすごくインパクトが大きい。」と話してくれました。ツアーを繰り返していくうちに自然と東北が好きになっていく。それを東京に帰った時にみんなに知らせたいなという気持ちがわいてくるし、それを伝えられたらいいなって思う。」と笑顔で語ってくれました。何となく入団したメンバーも、東北について知ったり、防災について学んだりすると段々と自分に置き換えて発信したいと思うようになっていく。思いが自然と芽生えてくる団体だと思えます。と西山さんが活動を続けていく中で見たメンバーの変化についても力強くお話をいただきました。

コロナ禍においてはツアーに行けないので、活動の形態も新たな転換期を迎えているそうです。今できることを探しつつ、またツアーに行けるようになったら早く行きたい。変化を前向きに捉えて、自分たちでできることを今いるメンバーで頑張っていきますと語ってくれました。卒業しても東北に行き続けたい。きずなで学んだことを家族など身近な人に伝えていきたい。と最後に語ってくださいました。